

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372401028
法人名	社会福祉法人 創友会
事業所名	グループホーム 慈幸苑
訪問調査日	平成 21 年 3 月 20 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 22 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成 21年 4月 16日

【評価実施概要】

事業所番号	4372401028
法人名	社会福祉法人 創友会
事業所名	グループホーム 慈幸苑
所在地	熊本県玉名市横島町横島2493-1 (電話) 0968-84-3711

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12 サウス清香205		
訪問調査日	平成21年3月20日	評価確定日	平成21年4月22日

【情報提供票より】(21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	6 人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	78 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人安田会 安田内科医院 ・ にしむら歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは自然に囲まれた高台に位置し、開放的なリビングからは遠く有明海やその先につながる島々を望み、朝日、夕日を間近に感じながら入居者にゆっくりとした時間を提供している。“今したいこと”を職員は入居者の言葉や、様子から察知し支援している。母体施設の排泄支援を取り入れ、オムツに頼らないケアの実践は入居者の尊厳と自信に繋がっている。家族の面会や行事への参加・協力の多さが信頼の厚さを物語り相互の関係も構築している。夜間帯に入浴支援を行う事で日中のケアがせかすことなく、そのゆとりは入居者の穏やかな表情に繋がっている。今後も個々の尊厳を大切にされたケアの継続と地域への還元が期待されるホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果の改善点について早急に話し合い、これまでのホーム理念に、地域密着型サービスとしての文言を加え、地域の中で過ごすことの意義を全職員で共有し、小中学校との交流や地域行事への参加を積極的に行うなど改善が図られたことが確認できた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、前回の評価を振り返る事からはじめ、運営者の福祉に対する設立の思いを再確認し自己評価を割り振り、管理者を中心に全職員でまとめあげた。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的開催される運営推進会議には、行政・地域の代表・家族が参加し、ホームの現況報告と、それぞれの立場で、権利擁護や認知症、在宅介護のあり方等についてミニ講和の場を設定しホーム運営や家族の不安解消に繋がった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や家族会の席を意見収集の場とし、話しやすい雰囲気作りを心がけている。ホームへの信頼は面会の多さやホーム行事への家族の協力などに表れているが、今後も入居者・家族の安心や信頼に繋がるケアに取組みたいとしている。今回の外部評価も家族の意見を受け一つの機会としホーム運営に反映させたい意向である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム理念に地域密着型サービスの文言を加え、地域との連携を深める為に、小中学校との交流や福祉体験の受け入れ、地域行事への参加等積極的に行なった。又、一番身近なホーム周辺の畑仕事に訪れる農家の方との会話の時間はこれからも大切にしていきたいとしている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価の結果を受け、従来の理念に地域密着型としての文言を追加し、今まで以上に地域との関わりを重要視した理念を全職員で作成した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員はホームを一つの家として捉えており、理念についてあえて改まった掲示をせず、日々の生活や会議の中で、自己を振り返り理念に沿ったケアになっているかを話あっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの周辺は民家がない為日常的な関わりは少ないが、畑仕事で訪れる農家の方と会話をしたり、摂り立ての果物をホームに飾るよう枝を付け持参されるなど交流が図られている。市の式典や小学校・老人会の発表会への参加、小中学校の福祉体験の受け入れを積極的に進めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価後の改善点について早急に取り組み、理念の中に地域密着型サービスとしての文言を追加した。外部評価の結果は全家族に報告している。今回の自己評価は全職員に割り振りまとめあげた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度定期的で開催される運営推進会議には、行政・地域の代表・家族が参加しホームの現況報告を行い、それぞれの立場で権利擁護や認知症、在宅介護のあり方などについてミニ講和の場を設けホーム運営や家族の持つ悩み、問題点の緩和に繋がった。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎回運営推進会議に参加があり、相談に応じてもらうなどホーム運営への協力が得られている。又、母体主催の行事などにも声かけをし交流に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	苑便りて入居者の近況報告を行い、健康状態については電話連絡や面会時に詳しく説明している。金銭管理は法人の事務担当者が行い利用料支払いの際家族に説明し、職員の異動についても面会時や家族会で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会の席を意見収集の場とし、話しやすい雰囲気作りを心がけている。ホームへの信頼は家族の面会の多さにも現れ、年の初めを特別な日とし外泊や日帰り帰省、初詣への外出などの協力が得られている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職は殆ど行われておらず職員と入居者の安定した関係が構築されている。同法人施設との職員の異動時は入居者の精神的ケアに努め、新しい職員についても夜勤時の二名体制をとり職員の精神的な不安にも対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のケア会議や法人内の勉強会に参加し、不参加者へも伝達講習で共有している。資格習得を目指す職員にアドバイスや資料提供を行い支援している。管理者は研修会の機会が不足していると考えており、今後内・外の研修の機会を充実させたい意向である。	○	今後内部研修の充実と外部研修をリサーチし、職員の力量に応じた受講によりケアの向上に活かされることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し情報交換を行ったり、他ホーム職員の見学の受け入れを行い交流に努めているが交換研修は行われていない。	○	相互訪問や交換研修の実施により、サービスの質の向上に繋がることを期待したい。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族と共に来苑し、入居者と一緒に過ごし雰囲気を感じてもらい、入居後の生活がスムーズに移行するよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お互いの立場を思いやる関係が訪問当日の入居者の「ここは上も下もなか〜！」の一言に表れている。風で飛ばされそうな洗濯物を案じ様子を見に行かれる方、昼食用に几帳面に漬物を切られる方、職員に「そぎゃんともしらんとね〜」と微笑まれる入居者等共に過ごし支えあう関係が確認できた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から入居者の意向や思いを感じ取り、早い段階でなるべく希望に沿いたいと“思い立ったらすぐに”をモットーに、桜を見に近くの公園に出かけたり、予定外の事にも入居者の体調を見て柔軟に対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランの作成時には、担当職員と共に本人や家族の意向を重視しながら立案し家族に説明を行い、全職員で共有している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一ヶ月ごとに見直しを行い入居者の状態変化に即したプラン作りを行っている。見直したプランが日々のケアに反映されているか管理者と職員はモニタリングで把握しよりよい支援に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や家族が同行できない場合の受診に対応している。母体施設の車の借用や体重測定器使用、見守りなどの協力が得られている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一回又、必要に応じ協力医による往診が行われている。歯科・眼科などこれまでのかかりつけ医の受診も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについての事前確認書と同意書、誓約書を作成し、家族会の中でも終末期についての話が行われている。ホーム側も本人や家族にとって後悔のないよう支援していきたいとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への対応、言葉掛けは十分に配慮し個々に応じ対応している。又、職員間でも気づきはお互いに述べ合っている。重要書類は事務室で保管し、記録物も本人以外の記入には十分な配慮を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を尊重しその日その時に応じた支援を行っている。食事が進まない時自室での休養を希望される時も、落ち着かれてから再度温めて提供したり、夜間より昼間の入浴を希望される時の対応など個々の希望に沿って支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム菜園で収穫した野菜は先ず、目で鼻で味わってもらい調理することを心がけている。入居者の誕生日には希望メニューとし、手作りケーキでお祝いしている。公園に弁当を持って出かけたり、ドライブを兼ねてのケーキバイキングなど楽しい食の支援が行われている。訪問日も男性入居者が菜園に小ねぎの収穫に行き早速汁物に利用されていた。入浴が夜間帯ということもあり、職員は入居者と同じ物を同じ時間にゆっくりと会話を楽しむ和やかな食事風景であった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>ホームや職員の都合ではなく本来の入浴の姿・夜に気持ちよくゆっくりやすんでもらえるよう、週に五～六回の夜間入浴を実施している。本人の希望によっては日中も支援している。外出を兼ね家族と共に近隣の温泉を利用する方もいる。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>菜園や庭の管理・手入れ、食事の準備・片付け、早起きされての鍵当番など入居者の生活歴や希望に応じ、やりたいことを楽しみながら行えるよう支援している。家族会の理解・協力により毎年実施される日帰り旅行は、それぞれの関係を深める大切な時間となっている事が掲示されている写真や、調査訪問日にお会いした家族からも聞くことができた。</p>		
25	61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>入居者の健康状態や天候に配慮しながら、近隣の散歩や散策、食材の買出しなどできるだけ戸外に出る機会を支援している。散歩途中で見つけた野の花がリボンに飾られている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>鍵を掛ける事の弊害は全職員認識し、玄関、居室共に日中は施錠せず自由な生活を支援している。不穏や帰宅願望の入居者へも、一緒にホーム内の廊下や敷地内を散歩する事で安心に繋げている。又、同法人施設職員による見守り協力も入居者の自由な生活を助けている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防火・避難訓練を実施している。避難訓練の際は安全に避難出来る様母体施設の協力が得られている。現在のところ近隣の方の参加を得ての訓練には至っておらず、今後の課題としている。	○	今後は隣保の方々へも協力を依頼していきたい意向であり実現に期待したい。又、定期的な訓練を実施している事を、近隣の方々に知ってもらう事でホームへの理解や安心に繋げていただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は三食とおやつ、入浴後や、声掛けにより確保している。食事は二度炊きやあらキザミ、量加減など個々に応じ対応している。摂取量は記録に残し、毎月の体重測定と併せ健康管理を行っている。献立は希望を取り入れながらもバランスよく、食欲に繋がる器や盛り付けに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	有明海や町並みを一望できるオープンキッチンのリビングはカレンダー・入居者の作品・置物・花々などにより季節を五感で十分味わうことができる。玄関や居室前通路には、日帰り旅行の思い出スナップ写真・作品が掲示され入居者の日々の生活が窺える。浴室や洗面所・トイレ等の共用空間は掃除が行き届き清潔に保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得てコタツやテレビ、好みのカレンダー、ペン立や筆記用具などが持ち込まれている。本人の希望や馴染みの品が持ち込まれている。どの居室も風通しや採光、ロケーションに恵まれ心地よい居室となっている、		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 慈幸苑
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名市横島町横島2493-1
記入者名 (管理者)	管理者 牧野 照代
記入日	平成 21 年 3 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭に近い生活が送れるよう、又、本人様らしさやその方の築かれた人間関係を保持できることを大切にした支援を目指している。	○	地域にみんなで出て行く事により、認知症になっても地域の中で暮らしていけるという安心感を与えたい。また、町内行事に参加し知名度をあげていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム会議やその時々意見交換の場に於いて自分のケアの在り方を見直す機会とし、実践に向け努力している。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	御家族からのご理解は徐々に得られてきていると思うが、地域へはまだまだご理解頂けていない部分もある。	○	運営推進会議、家族会を定期的に関き、理解・協力を求めていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の畑で農作業に來られた際は挨拶はもちろん、暑い時期であれば冷たい飲み物などをご利用者と届けることなど行っている。又、地域に住むスタッフの家族や入居者の家族が自発的に農作業を手伝いに來られたり、近隣の方も野菜を届けて下さる事がある。	○	お付き合いの機会を少しずつ広げていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町の敬老会、又、小・中学校への行事参加を行っている。又、小・中学校の福祉体験等を通し、交流を行っている。	○	交流できる場へ参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中で民生委員より地域の高齢者の困り事を話して頂ける為、相談や話し合いの機会となっている。	○	スタッフも話し合う機会となっている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はスタッフ全員関わり日頃のケア等確認する機会になっている。又、外部評価の結果にてスタッフが改善すべき点はホーム会議にて話し合い、質向上に取り組んでいる。	○	指摘を受けたことは改善へと取り組んでいる。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、苑だよりを中心にホーム内の活動報告をし、貴重な意見を頂いている。	○	まだまだ地域の方との関係性がうまくできておらず、踏み込んだ話題は行きついていない。地域とのお付き合いを大切に温めて行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	全体での運動会、夏祭りに市町村担当職員に参加の声をかけをし、実情を知って頂き、時折、アドバイスも頂いている。	○	運営推進会議に毎回参加頂き、ホームの生活状況は御理解頂けているので今後もサービスの質向上に向け相談していきたいと思う。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	その都度資料に基づいてスタッフ間で学んでいる。又、必要である家族には情報提供し、利用されている家族もある。	○	学ぶ機会として勉強会を行いたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	互いに報告・連絡・相談を行い、ケアの充実を図っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書に基づいて、説明を行い、理解を頂いた上でサービス提供へつなげている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の意見・苦情等は、改善に向けスタッフ全員で話し合いを行うようにしている。	○ 苦情があった場合は、家族会、運営推進会議でも報告し、解決に努めていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	苑だよりを発行しており、暮らしぶりは写真をみて頂き、その他本人の状態については電話、FAXで報告し、又、家族会においても報告している。	○ 面会時には本人様の状態をケアプランも含め、細かにお伝えしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフ全員で話し合い、又、法人からも助言を貰い、前向きに対応している。	○ 意見や苦情は、改善に取り組み、今後活かすよう取り組んでいきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や日々の業務の中で提案や意見を言い、法人や運営者へ伝え、助言を貰い、反映に努めている。	○ スタッフは想いや意見が言える働きやすい環境作りを続けていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	法人の協力やスタッフ間で話し合いながら調整に努めている。	○ 利用者状況に合わせて体制をとれるよう努力したい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みのスタッフが新しいスタッフをフォローし、入居者に不安、心配を与えないようにしている。	○ スタッフの異動は最小限に抑えていきたい。代わる場合は今後も事前学習をお願いしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会参加や外部研修へ参加し、伝達講習をしている。	○ 研修だけでなく、ホーム内でも学べる機会を増やしたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	支部連絡協議会が2ヶ月毎に開催されており、職員同士の交流があっている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務作成に当たり、希望休を取り入れ、休日のリフレッシュにつなげている。年1度の法人企画の職員研修旅行に参加し、他部門との交流を図ると共に、心身のストレス解消につなげている。	○ できるだけ、希望の休みが取れる様、勤務調整へ心がけて貰っている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	労を労いながら、ステップアップを認め、働く意欲や向上心へ繋がっていると思う。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問を行い、本人・家族の思いを聴き、思いを知る事を心掛けている。	○ 本人・家族との面接は大切にしていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申込時、本人・家族の話を良く聞き、困り事や今後についての思いを知り、ケアプランへ反映・支援出来る様努めている。	○ 家族との情報交換等の話す機会は大切にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、御家族の要望・困り事を知り、必要なサービスをお伝えし、利用をお勧めしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に御相談頂ければ実際に体験して頂き、サービス利用時に混乱なくサービスをご利用頂けるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護される側、介護する側という立場でなく、一緒に生活している家族との思いで支え合っている。場面、場面でそれぞれの方から学ばせて頂く事がある。	○	力の必要な場面ではスタッフが活躍する等互いの関係作りを続けていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人はもとより、その家族もグループホームの一員という思いでの関係づくりを心掛けている。	○	家族が無理のない形でお付き合い頂けるよう心がけていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今まで築いてこられた家族関係が継続できるよう個別に支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	配偶者や友人が法人におられる為、面会に出かけられている。	○	本人が望まれる事に対し、今後も可能な限り、叶うよう支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	移動時には車いすの方を押されたり、手をつないで歩かれたり、利用者同士助け合う姿が、見られている。席位置の配慮や会話の仲介を行っている。	○	さり気ない見守りや仲介で利用者同士の支え合いができるよう支援を続けたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	法人に移られた場合には、本人、御家族共にできるだけ継続的な関わりを持つように努めている。	○	住家は変わられても、大きな一つの家族として関わりを持ち続け、今後もそのように努めていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様がホームでどのような暮らし方を望まれているのか、会話の中や行動より把握に努め、支援に心がけている。	○	より本人様の思いに近づけるよう、ICFの立ち上げシートを皆で学び活用へ繋げたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人はもとより、機会ある毎に御家族の方からもお話を伺い、本人様のこれ迄の事を知り得る事に努めている。	○	御家族からの協力を得て、今後も情報収集に心がけ、本人様の生活の安心へ繋げていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	関わりの中でできる事、できない事と見極め、現状の対応をし、その旨記録へ詳細に残し本人様の「今」への把握に努めている。	○	難しかった事例等その都度、スタッフ間で話し、何がいけなかったのか振り返り、次へ活かせるよう努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは担当制にし、本人様の状況がより反映できるよう努めている。又、1ヶ月毎見直しをしたり、ホーム会議で話し合う事でスタッフ全員が本人様を見つめたプラン作りへとつなげている。	○	本人様の思いにより近付けるプラン作りができるよう、ICF立ち上げシートやセンター方式の利用ができるよう学んでいきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プランの見直しを1ヶ月毎に行い、変化が生じた場合、その都度見直しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活日誌の記入、誘導ノートの記入や暮礼帳などで情報共有し、日々のケアに活かしている。	○	本人様の言動は記録に細めに残し、その時々本人様の思い等が今後のケアに繋がるよう心がけたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や受診対応等、必要に応じ支援している。その日の季節や気候に応じ、ドライブやお出かけ希望にも応えられる様努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小中学校の行事や地域の夏まつりへ参加させて頂いている。法人との合同行事では地域の方々からも多数のボランティアでの参加を頂いている。	○	地域へ出向いて行ける様、機会を作っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人外のサービス利用は対象者もないため 利用に至っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は該当者がいない。		今後必要な時は協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1名を除き、1回/Wかかりつけ医の診察を受け、継続的に身体状況を見て頂いており、緊急の場合や受診が必要な時は、受診できる体制を整えている。歯科・眼科など入居前のかかりつけ医の受診も支援している。	○	必要に応じ回診日以外での受診も行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	法人で嘱託医、協力医があり、相談出来る窓口がある。	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	特養看護師との医療連携体制が出来ており、早めの対応が出来ている。	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	入院される場合、介護計画、生活の状況等、情報提供している。又、退院の場合も看護サマリーで情報共有し、嘱託医より退院後の生活支援についてアドバイスを貰っている。	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	第11回の家族会において、看取りについての事前確認書の作成、今後、本人・家族の意向を重視した終末期を迎えられるよう再度検討した。	○ 今後も経過をみながら話し合いの場をもち、支援へ努めたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	ホームで看取りを行った、1事例を基に、看取り介護への心構え準備等話し合いをDr、NSと共に行い、終末期へ向けた支援へ備えている。	○ 本人様や御家族にとって後悔のないよう支援していきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	細やかな生活の様子、身体の状態等、情報提供し転居先でスムーズな生活が送れるよう努めている。又、転居してこられた場合、本人様が安定されるまで家族の協力、面会依頼し本人様の訴えに傾聴し対応したい。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけ対応は、失礼のないようその方に応じた対応を心掛けている。記録についてもその方と特定できない様個人名の記入をせず記録している。	○ スタッフ内でも自分の言動への振り返りや互いに注意をしい、気掛けている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	作業へすんなり取り組めるよう話しやその場の雰囲気作りを大切に、支援している。作業を拒まれる方には無理強いせず別の機会を設ける様声かけを心掛けている。	○ スタッフの一方的な思いの押し付けにならない様、本人様のその時々表情や気持ちを大切にしている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時その時の気分や状況に応じた働きかけを心掛け、気持ちが向かれない時は見守り、本人様が過ごしたいよう希望を尊重している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望により近隣の美容院へ散髪へ出かけられており、又、季節に応じた衣類の調節、家族への連絡、外出時の化粧等行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	苑で育てた野菜等ふんだんに取り入れ、見た目でも楽しんで頂ける様会話しながら、好みの物、好み調理法を把握し、作業の中でなんらかの関わりを持って頂き、協力し合っている。	○ 必ず食材をお見せしたり伝える事で献立決めを心掛けている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	年中行事や日中の会話の中で飲酒の希望や食べたいおやつ等の話を聴き、希望に合わせ提供している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々に排泄の間隔を把握しており、本人様が排泄の希望を引き出すような声かけを行っている。	○	日中はトイレを利用されているが、夜間は3名の方がポータブルトイレを利用されている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	5～6回/Wの夜間入浴を実施しており、夜間入浴にて拒否のあった場合には、日中での入浴も実施しており、本人様の希望により行っている。	○	1回/月、家族と共に近隣の温泉を利用し、入浴されている方もある。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	共用空間には和室もあり、休息をとられたり、居室での昼寝などされている。又、冬場は夜間湯たんぽ利用し安眠につなげている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園の手入れ、庭の手入れ、買い物、洗濯物畳み、食事作り等役割とされている。以前は特養に御主人がおられたが、今は亡くなられた為、気持ちの落ち込み等ないように友人に会いに行かれる支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の中には、お金を所持されている方もおり、本人の希望の品の購入など、本人様の確認の点からお小遣い帳を用意している方も1名いらっしゃる。又、病院受診の際は自分で支払ってられる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候、気温を見ながら、日々の食材の買い物や散歩、外気浴等実施している。又、法人のデイサービス施設へ頻回に出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じた外出(希望時含む)年3回の家族も含めた外出の支援。	○	行ってみたいと望まれる事は叶えられるよう支援したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話が併設事業所にしかなく、電話をかけられる際の協力や見守りを行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	頻回ではないが、弁当を持参し面会に来られる事があり、汁物、小鉢を提供し一緒に食事を楽しんでもらっている。	○	家族、知人と過ごされる時間を大切にしたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の造りが入居者の方がどこからでも出入りされる様、なされてお、自由に過ごされている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人一人の方が、自由に生活出来ておられ、玄関、居室共、日中は開放しており、夜間は家庭と同様施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	歩行時の見守り、トイレ確認、目配り、気配りを実行し、本人のプライバシーに配慮しつつ、安全配慮を行っている。	○	帰宅願望にて歩いて帰られる場合、又、法人への移動等他スタッフ(法人)への協力も得ながら所在把握へ努めている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の力に応じて一緒に付添ながら料理をされる時の包丁の使用など支援している。裁縫時使用される際は近くで見守り、針山へ返却頂けるよう声かけしている。	○	生活の中で見守りがあり、今の所、異食やケガはみられてはいないが、気がける必要あり。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人の勉強会を通し、事故防止を心掛けている。	○	喫煙については、場所をきめており、火の始末の見守りを行い、支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	状況に応じ、連絡、報告の徹底がなされている。 医療連携体制がある。 救急蘇生法の勉強会がある。	○	定期的に勉強会を行っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練、避難訓練等、定期的実施している。 消防署立会のもと安全に避難出来る様に、又、法人地域からも協力得られる。	○	ホームのある地区に限らず、隣保の方々へも協力をお願いしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の方の面会時、生活状況やリスクをお伝えしている。	○	御家族へ状況をお話し、相談をしながら「今」を大切にされた本人様への生活支援をしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、異常があれば、日中再検し、NS報告し、必要時は受診へ繋げている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の健康手帳を活用し、既往歴、内服、副作用等を確認している。 服薬時の見守り、薬の追加時も口頭でも伝えている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝の体操や、歩行など身体を動かしてもらい、おやつ時は牛乳等をお勧めしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きされておられる方も、おられる。生活歴に応じ、毎食後出来ていない方もおられる。日中は元より就寝前には口腔ケアをお願いしている。	○	お一人、お一人に合わせた働きかけを行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に合わせ、形態や量等個別に対応している。二度炊きの方が4名おられる。おにぎりにて提供する時もある。献立は記録に残し、同じ品が出来るだけ続かないよう気をつけている。	○	食事量や水分量はその時々形態に合わせてながら提供し、トータル量は一日を通して調整している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	洗面所のタオルの交換。トイレのタオル1日3回取替え汚れていたら、その都度交換している。 手洗い、うがいの励行。	○	お天気のいい時には布団を干し、清潔に心がけている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ふきん、まな板など、ハイターにつけ置き洗いし、タオル類もこまめに分けて、洗っている。食材の期限に目配りし、期限切れは使用しない。食器は熱湯消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周囲に花を植えたり、野菜作りなど季節に応じ、入所者の方と話し合いながら協力を得ている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節感のあるカレンダーや作成された作品を掲示しており、居室には本人様が好まれる写真を貼ったり、それぞれの空間作りがみられている。	○	御家族よりお花や鉢植えを頂いたりお手入れを気掛けて頂いている。季節感のある空間作りを続けていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人個人の思いを優先しながらゆっくりと過ごして頂いている。ソファ席、食席など一人の空間が保たれる様にしている。又、和室では障子の仕切りを利用している。	○	利用者の状況をみながら、テーブルやイスの配置を考え、季節感のある空間作りを行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方、家族の方の希望により、馴染みの品など持ち込みされておられる。 こたつやテレビも持ち込みされ、我が家となっております。	○	自室内にある品でもお一人お一人話し合いながら、それぞれに過ごしやすいよう配置を考え、その方らしい部屋作りを支援したい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室におられぬ時間帯、掃除し、日中の気候に合わせて換気している。 室内温度は入居者の方にお尋ねして調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その時々状態で、テーブルの位置等工夫している。 移動時もスペースを確保して安全に努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室のネーム、トイレ、入浴休み等の貼り紙があり、入居者のみなさんが、確認されておられる。張り紙には利用される方の視野の高さで表示している。	○	一人一人の力に応じてできる事を活用し、支援していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	菜園があり、季節毎に収穫出来る作物があり、毎日の日記とし、水やりをされておられる。自室前の庭園があり盆栽をされておられ、ベランダも洗濯物干しや晴天時はイスを並べ過ごされる。フェンスも物干しとして活用されておられる。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の皆様が集うリビングからは、横島町・有明海を一望でき、雲仙の雄大な姿も眺める事ができる。夕方には日の沈む瞬間を眺め、一日の癒しの一つとなっている。利用者の方々が、終の棲家としてその人らしく安心して暮らして頂ける様、スタッフ全員で支援している。結果、たくさんの笑顔を頂き、スタッフのモチベーションが豊かになり働きやすい環境となっている。ホーム内での互助関係が成り立ち、お一人お一人の「今」やそれぞれの個性を尊重した暮らしがある。また、御家族により日々の暮らしの支援が当たり前になり、一緒に作り上げる家庭に近づいている。